ひょうごJCC

28

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

1994.12.15

兵庫ＪＣＣは、生協、ＪＡ(農協)、漁協、森林組合等の兵庫県下の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行及び全国、海外の協同組合運動との連携をはかることを目的に、1984年７月７日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らしよい兵庫をめざして―協同が息づくまちづくり―」を『基本理念』として、協同組合の「共通行動目標」の実践に取り組んでいます。

Contents

1．協同組合活動スナップ……1
2．協同組合間提携シリーズ④……2～3
～原点を忘れることなく、小さな芽でも大切に育てていきたい！～
3．いま協同組合では(活動紹介)……4～5
生協、ＪＡ(農協)、漁協、森林組合
4．「兵庫ＪＣＣ」10周年を機に一層の飛躍を！……6
5．協同組合運動への提言……7
姫路独協大学　経済情報学部　助教授　中久保邦夫
6．ロッチデイルの虹(第６回)……8～13
コープこうべ生協研究機構　友貞安太郎
7．世界を見つめる国際情勢……14
～ケニアの協同組合～
8．協同組合運動に生きる……15
兵庫県漁業協同組合連合会　参事　寿　進
9．協同組合研究短信<No.12>……16

協同組合活動スナップ

第23回全国森林組合大会で、「第２次森林と人いきいき運動」(平成７年度～11年度)を採択しました。
(11月17日、東京で)　(森林組合)△

△(生協)　94年度兵庫県生協大会を開催し、県下生協運動の発展を祝い、今後の前進を誓い合いました。
(10月27日、県民会館で)

山田錦フェスティバル・稲刈りツアーで農村と都市との交流を深めました。
(10月27日、加東郡東条町で)　(ＪＡ)▽

▽(漁協)　熱戦続く淡路地区漁婦連バレーボール大会
(10月22日、三原郡三原町で)

●編集発行
兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA(農協)・漁協・森林組合

●編集事務局
兵庫県農業協同組合中央会(JA兵庫中央会)
〒650 神戸市中央区海岸通１番地
TEL 078(333)5888　FAX 078(325)2140

協同組合間提携シリーズ④

原点を忘れることなく、小さな芽でも大切に育てていきたい！

◇漁業の展望◇

厚生省による将来の日本人の人口予測では2010年に有史以来最も多くなり、１億2,945万人に達すると予測されている。また65歳以上の人の割合が最も多くなるのは2020年で、3,197万人と人口の¼以上を占めると考えられている。

水産業の世界でも漁業に従事する人達の高齢化がかなり進んでおり、現在60歳未満の人の割合が80％であるが、厚生省の予測を前提に漁業の方で計算すると、25年後には35％となり、老齢化が急速に進行すると言われている。

こうした中で漁業の展望を考えてみると、協同組合を構成する組合員が減少していくとなると、漁港や漁業施設等の他、栽培漁業の公共投資が減少してしまうことや、さらに老齢化が進行していくと、従来の漁船の操業実態でよいのかという問題が起ってくるのではないか。何れにしても漁業人口が減少していくことはある程度やむを得ないと思われるが、第一次産業に人を残すためには今後安定した所得の保障が絶対必要である。

明るい活気ある豊かな浜をつくるために現状はどうなっているのか、なぜ困難な状況になっているのか、この原因がどこにあるのかを改めて学習し、これからどのようにしたらよいのかを真剣に考えなければならない。

協同組合運動意識の低下、青年個々の価値観の多様化がいわれるなか、今改めて自らが自覚と責任を持って行動を発展させるとともに、新しい沿岸時代の漁業は漁業者自らが参加する積極的な栽培漁業の推進と資源管理によって計画的生産を進め、所得の増大と安定をはかることは可能であると考えられる。

これからの日本の食糧問題、特に21世紀の食糧問題を考えた場合には、やはり水産物は非常に大事な動物性タンパク質の供給源であり、日本人の動物性タンパク質の摂取量からみても高齢者になるほど魚の摂取量が増加する傾向にあることを考えても主要な食糧であることに変りはない。

◇産直についての課題◇

最近のアメリカや北欧３国あたりでは政府がちゃんとしたパンフレットで魚食についても力を入れた宣伝をしている。漁協の組合員は獲ることには一生懸命だが従来魚を売ること、また魚を食べてもらうことにはあまり関心を払うことがなく、その面では漁協を含めて努力不足を痛感している。

魚のさばき方を実習

食に対する問題は、生産者にとっても消費者にとっても命にかかわる問題であるだけに、生産者である組合員は安全な食糧を作ることが生業であり、これをいかに好ましい生産条件を組合員に提供するかが、生産にかかわる協同組合の役割である。

食をめぐる双方の要求は、これまで必ずしも一致してきたとは限らないが、ややもすると中間介在業者の意向を受けて、見栄えの良い、荷受けが喜ぶようなものを商品としてとり揃え、必ずしも消費者が求める安全性、実質的な安さなどを満足させるものではなかったのではないだろうか……。

しかしながら、最近では徐々にではあるが、生産者

と消費者がお互いに産直運動で「顔のみえる関係」が強調されるようになり、安全で新鮮な水産物を消費者に届けることができるようになってきたことも事実である。

これからの協同組合運動、協同組合間提携がどのような方向づけができるのか、それぞれの協同組合も経済事業として経営を考えている限り、きれいごとばかりではすまされない事情もあると思う。広い視野にたって考えてみる必要があると思われ、特に流通加工資本が間に立入って、生産と消費とが直接つながらないなかで、生産と消費の関係をもっと透明なものにしていく必要があることは前々からよく言われてきたところだが、実際には諸々な問題も抱えむずかしい面が多い。

特に漁協の場合はほとんどといって組合規模も小さく、そのため取扱品目、数量とも限られることが多いため、安定した条件での産品供給がむずかしく、例えば生協にすると季節的な単品に限られ、そういう意味では規格もその都度厳しくなるし、率直に言って漁協からみれば協同組合間提携といっても農協と生協間に比べても非常にむずかしい面が多いのではなかろうか。例えば季節により比較的多獲性のある魚にしても、加工品にしても、その時期に生協に直接取引できるかといえば、それはＮＯである。そうすればどうしても市場に出荷してしまうことになる。職員もそのほうが楽であるので従来から易きに流れてしまうことになる。

私の所属する神戸市漁協では、販売所(市場)を垂水本所と長田区駒ケ林の支所の２ケ所に有していて毎日昼市と朝市とを実施している。扱物は地先で水揚げされた活鮮魚を中心にアサリ貝類と季節的なワカメを取り扱っている。

これとは別に大阪湾で最も水揚量の多い、イカナゴおよびシラスについては流通も異なるため、ほとんどを加工業者によってセリ落とされ和歌山、淡路方面に出荷されている。

当漁協でも近代的な加工場を有しているので、イカナゴの新子はくぎ煮に、シラスはちりめんじゃこに加工している。加工製品は東京市場の他、各中央市場に出荷しているが、近年はブランド名でも知られるようになり、一部は大阪生協の他、委託販売所（こうべブランド品扱店）並びに当漁協の直販所でも扱っている。

◇生協、ＪＡとの交流について◇

県市内における協同組合間提携推進事業の一環として協同組合間女性交流会にも参加し、生協、農協、その他生産組合の方々との交流を図りながら、積極的に魚食普及、天然石けん推進運動などに努めている。この協同組合間女性交流会集会がひいては漁協事業の拡大につながるものと大いに期待している。

楽しいな、魚のつかみどり

また、都市生活者(消費者)に漁業への関心を深めて理解をしてもらうために、都市農漁村交流の情報拠点づくりとして、垂水漁港を一日開放してＰＲ協議会自主イベント「神戸おさかなふれあいフェアー」を1992年から毎年夏休み期間を利用して開催している。その他にも県漁連、こうべコープの皆さんとともに、毎年７月下旬から８月上旬まで何回かにわけてマリンスクールを開催し、体験実習として活きた魚のつかみどりを行い、たくさんの親子さんが参加し盛りあがった。

魚食普及の料理教室も定期的に開催し交流は進んでいるが、これからの提携をどう発展させるか、そのためには原点を忘れることなく小さな芽でも大切に育てていきたいものだと思う。

（神戸市漁協　参事　小坂靖三）

いま協同組合では　活動紹介

生協　コープこうべと播磨生協が合併へ

兵庫県全域の消費者・生活者の組織として、協同の力をさらに発揮し、より高い消費者利益の実現を図ろうと、播磨生協とコープこうべは、それぞれ11月５日、10日に総会を開催し、両生協が95年４月１日を期して合併することを承認しました。合併方針は、今年の５月に開催された両生協の総代会で決められていましたが、合併の決定には総組合員の過半数の出席による総会で、出席者数の３分の２以上の賛成を得ることが必要と定めた生協法に基づいた手続きとして、組合員が参加する総会を開催したものです。コープこうべは、灘生協と神戸生協の合併以来32年ぶり、播磨生協にとっては生協設立後初めての総会でした。

11月10日、コープこうべの合併総会
（神戸・ワールド記念ホール）

連帯の成果が価格にも

一方、全国の生協の協同・連帯の成果を商品にいかそうと、日本生協連は、コモ・ジャパン（コープこうべを含む国内11生協で構成）と共同で「良品質で低価格」をモットーに開発したコープ商品の取り扱いを10月下旬から始めました。これは、トマトケチャップ、ミックスチーズ、ホットケーキミックス、みりん風調味料、だし入り味噌、レトルトビーフカレーとビデオテープの７品目。いずれも一般メーカー品の半額程度の価格で、協同することのメリットを実現した商品になっています。

ＪＡ（農協）　創造と変革で培うJAづくりをめざして！

わたしたちＪＡは、21世紀を見据え、90年代後期のＪＡの確固たる基盤づくりに向けて、新たな展望を切り拓くために、10月26日に県農業会館で「第26回兵庫県ＪＡ大会」を開催しました。

ＪＡ大会は３年に１回開催し、今後３年間の本県ＪＡグループの進むべき方向と取り組み方針を決定するためのものです。大会決議は、これまで取り組んできた組織・事業活動の成果をふまえ、“創造と変革で培うＪＡづくりをめざして”「地域と人、いきいきＪＡ活動」の展開に取り組み、組合員のしあわせと住みよい地域づくりに貢献するため、次の事項を実践します。

１．自然と環境にやさしい農業と特産物のある地域づくりをすすめます。

第26回兵庫県ＪＡ大会を開催

２．快適なくらし・住みよいまちづくりとＪＡの総合力を生かした魅力ある事業活動をすすめます。

３．新たな創造と変革で、事業サービスの向上と経営体質の強化をはかります。

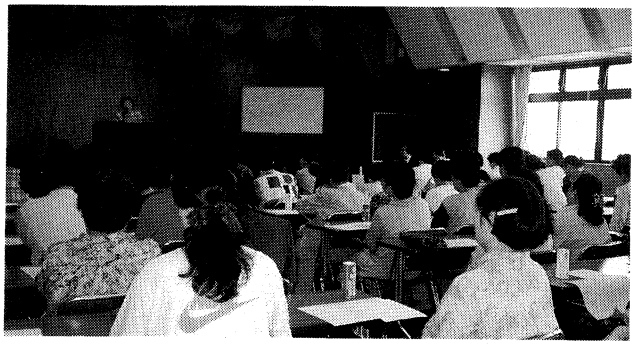
これらによって、県下ＪＡグループの役職員が英知を結集し、一体となって大会決議の実践に取り組み、ＪＡが“地域でかけがえのない存在”として、地域のみなさまの期待に応えていきます。

漁協　県漁婦連ブロック講習会を開催

漁協婦人部では、生産と生活の場である海を守るため、海浜清掃の実施や天然石ケン使用運動の推進に取り組んでいます。しかしながら、時間が経つにつれて、その取り組みはマンネリになり、特に天然石ケン使用運動については、徐々に停滞ぎみとなっていました。

この運動の回復をねらいとして、兵庫県漁協婦人部連合会が毎年開催している県下４地区(摂津10／４、播磨11／８、淡路11／22、但馬９／27)のブロック講習会に、コープこうべの井上理事、大内理事を講師として招き、「コープこうべの石ケン普及運動について」のテーマで講演をいただきました。

講演の中で、おふたりは、天然石ケン使用の必要性、合成洗剤の危険性などをブラックライトを使用したり、事例を交えながらわかりやすく説明され、過去数十年間の石ケン使用運動を続けてきたコープこうべの組合員の活動実績のノウハウを聞いて今後の婦人部活動の活性化に大いに役立ち、色々と参考にさせていただく点が多く、婦人部員たちも自分たちの活動の再認識を行うことができました。この研究会をふまえて、もう一度原点に還って、天然石ケン使用推進運動に積極的に取り組むことを誓い合いました。



熱心に講演を聴く婦人部員

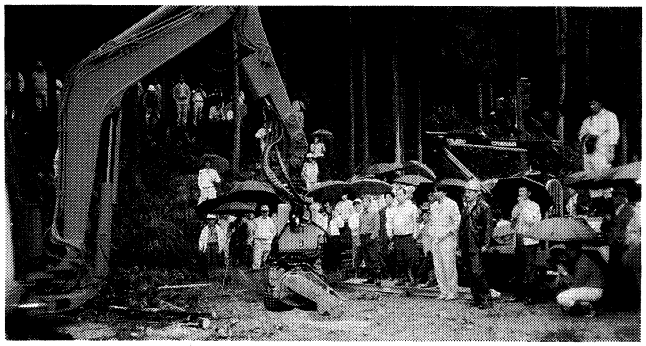
森林組合　高性能林業機械シンポジウムを開催

林業をとりまく現況は、年々厳しくなっておりますが、特に山で働く人々の高齢化と減少が続いており、労働力の確保が大きな課題となっています。

若い新規の労働力の確保対策として、福利厚生面の改善とともに、労働の軽減に機械化を進めることが魅力ある職場づくりにとって重要です。

９月28日・29日に朝来郡朝来町で、県林務課、但馬流域林業活性化センターおよび県森連との共催で高性能林業機械のシンポジウムおよび現地実演会を開催しました。

午前中は、一宮町、八鹿町両森林組合の林業機械化と経営面についての事例発表につづいて、大屋町森林組合の作業班から機械の取り扱いと作業能率についての事例発表がされたほか、参加した森林組合からオペレーターの養成等について多くの質問が出され、熱心な討議がされました。



林業機械実習を見守る参加者

午後は、ショベル型タワーヤーダー、ハーベスター、スパイダー等による現地実演会を実施しました。

当日は小雨の降るなかでしたが、県下各地から200人を超す関係者の参加があり、実際に機械操作を体験するなど、参加者の熱気のなか盛会裡に終了しました。

「兵庫ＪＣＣ」10周年を機に一層の飛躍を！

～第72回国際協同組合デー兵庫県記念大会～

世界の協同組合関係者が協同組合運動の発展、平和な社会とよりよい生活の実現を誓い合う第72回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を７月２日(土)、神戸市中央区の朝日ホールで盛大に開催しました。

あいさつをするＪＡ兵庫中央会の西田会長

今年の大会は、兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫ＪＣＣ）設立10周年を記念して、「水(海)、緑、大地～地球と地域の環境協同運動」をテーマに、県内の生協、ＪＡ(農協)、漁協、森林組合の組合員、役職員ら関係者400人が参加し、フィジー協同組合の女性代表を招待し交流を深め合いました。

記念式典では、主催者を代表して県農業協同組合中央会の西田一治会長があいさつの中で、「兵庫ＪＣＣの10年を振り返り、協同組合間の交流・提携について全国に先駆け実践に取り組み、多大な成果があげられたことは、各協同組合の皆様方の参加と協力のたまものです。10年間の成果と反省を礎にして、21世紀に向けて新たな第一歩を踏み出しましょう」と今後一層の飛躍を強調しました。

また、フィジーの協同組合の女性代表のアリシ・ナウレウさんがフィジー協同組合の実情を紹介しあいさつをしました。

フィジー協同組合の女性代表

記念式典の最後に、県生活協同組合連合会の藤尾暁子理事が、「問題が地球的であっても、解決はわたしたちの足元から始めていくことが必要です。暮らしのなかから環境を考え、生協、ＪＡ、漁協、森林組合が手をつないで環境協同運動をすすめましょう」と力強く兵庫ＪＣＣ宣言を朗読し、参加者全員の力強い拍手で確認し合いました。

午後の記念公演は、兵庫ＪＣＣ10周年を記念して、わらび座による「音楽アンサンブル～虹・コウノトリ大空へ」の歌と演奏を楽しみました。

『開拓者達の規約―ロッチデール公正開拓者組合定款―』を作成

兵庫ＪＣＣ設立10周年を記念して、ロッチデール公正開拓者組合の定款の翻訳を姫路独協大学・経済情報学部助教授の中久保邦夫氏に依頼しすすめていましたが、このたび『開拓者達の規約―ロッチデール公正開拓者組合定款―』として完成し、11月11日に発行し、県内の協同組合関係者をはじめ、研究者等に配布しました。訳注本はＢ５判、32頁、1,000部印刷。頒布価格500円(税込み、送料別)。

協同組合運動への提言

「開拓者達の規約」の訳を終えて

姫路獨協大学 経済情報学部
助教授　中久保　邦夫

長い間果たせずにいた仕事を何とか形にでき、ほっとしています。「ロッチデール公正開拓者組合定款」の訳を印刷できるようになった経緯や底本、また訳者の言い訳は総て「訳者序文」と「訳者あとがき」を見て頂くことにして、兵庫ＪＣＣ発足10周年の祝いにこのような形で関わり得たことを喜び、感謝します。

感想は、何人かの方から頂いた葉書からいくつか借用することで綴ることにします。この共感(訳をした者にとってはこれ以上なく嬉しいもの)を紹介する方が、下手な感想よりも翻訳意図をよく分かって頂けそうだからです。(これは、明らかなルール違反ですし、その意味もないでしょうから、どなたの言葉かは伏せます。)

《これで初めて隔靴掻痒の思いをしないで、考え、話すことができます。それにしても規定は各項各条とも大変細かいですね。主として内に向かってそういう必要があったのか、それとも外に向かってそういう必要があったのか興味のあるところです。》協同組合は普通の事業体以上にシステム確立が重要だという考えに行き着いたのは、定款を読んだことから出発しています。初めて定款を読んだとき、事細かな規定の仕方が意外で、同志的信頼がなかったのではないかとさえ思いました。その意味を考える中での結論が、理念の持続が必ずしもたやすくない当たり前の人間のあり様を見据えたシステム化という開拓者達の知恵だ、ということでした。

《協同組合史、思想史研究は基礎資料、一次資料の整備がきわめて遅れているということを日頃より感じておりましたので、大変価値あるお仕事を拝見して感謝致しております。》協同組合文献出版は、戦前の方が豊富な感じがします。このような錯覚にとらわれるのは、基礎文献がなかなか読めないからなのでしょう。ともかくは訳が手に入りやすくなったのは一歩前進。同じく……。

《これ程話題になり、しかもないものはありません。協同組合も、色んな意味で、壁にぶつかっております。このような時は原点に戻ることが基本と存じます。その意味では時宜に適したものといえます。》「誰もが讃えるが、読んではいない本」、マーク・トゥエーンのこの有名な古典の定義に、この小さい冊子がぴったりと当てはまるのは不思議な気がします。この状況を多少とも変えることができれば幸い。1845年の修正全文は本邦初訳のはずです。その背景がどのようなものであったのか、協同組合史の詳しい研究に待つとして、文面でどうであったのかに限っても、原点に戻って座標を確かめることは意義があります。ですから《改めて規約の精読をしてみたく思っています》と言っていただけるだけで、我が意を得た思いがします。

《現在、地上で得られる(過言ではなく)資料に、全て目を通してのご訳稿、ご努力》。いえ、いくらなんでもこれは「過言」です、正直なところは「あとがき」に書いたとおりなのですから。もっとも出来るだけのことはしたつもりであり、訳に思い入れ(思いこみ？)があるのは事実です。

それでも色々と出てくるのが、翻訳の反訳とも書かれる所以で、《「管財人」「大法官庁」「高等大法院」「ランカスターはランカシャーと同義」「１£≒10万円超」「Temperance Hotel」「ウィーバーズ・アーム」「ツゥウィーデイル」「貯蓄銀行定款証明指定弁護士」など、訳本文、訳注など、異論が一杯たまっています。》という指摘も来ています。異論が議論を呼び、議論が協同組合の原点の現代性の改めての認識に繋がれば、我が喜びであり、そのために人身御供となることはﾑﾆｬﾑﾆｬﾑﾆｬ……。

ともあれ最後はこの言葉で締め括り。《兵庫県は、こうしたいわゆる“学習”面でよい仕事をしますね。》訳稿に目を通し不適切な表現や誤植など細かい点まで指摘頂いた長年の研究会仲間や、何度もごっそりと朱を入れさせてくれた事務局のお陰です。どうも、ありがとう！

ロッチデイルの虹

コープこうべ生協研究機構
友 貞 安太郎

ロッチデイル公正先駆者生協 創立150周年記念史料特集

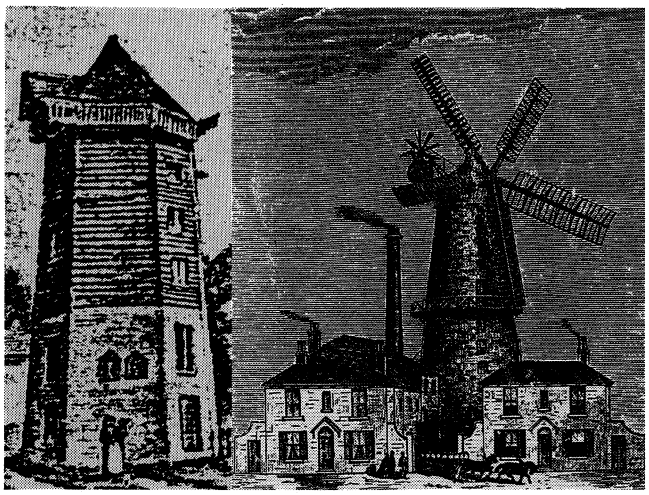
第 6 回

今年はロッチデイル公正先駆者生協が1844(弘化１)年８月15日に創立されてから、150周年の記念すべき年にあたり、母国の大英連合王国生協中央会(ユニオン、Ｃ.Ｕ.)、生産卸売連(Ｃ.Ｗ.Ｓ.)、小売生協連(Ｃ.Ｒ.Ｓ.)、共済連(Ｃ.Ｉ.Ｓ.)、ノーウエスト生協(ロッチデイル生協の後身)などの各組織が、地元ロッチデイル市の積極的な協力を得て、今年５月から12月末までの８ヵ月間もの長期にわたってキャンペインの催事がさまざまに行なわれています。

また、世界の「協同組合運動の故郷」ロッチデイル市の発展のために、現在マンチェスター市にあるＣ.Ｒ.Ｓ.(Co-operative Retail Services Ltd.)の本部事務所が４階建てで建設中で、来春完成して稼働を始めると、『工事従事者を含めて約3,000人の雇用が実現され、ロッチデイル市は「先駆者たち」によって世界中の協同組合運動者に記憶されていますが、今度もＣ.Ｒ.Ｓ.本部の移転という生協関係者の配慮で、再び地元が発展出来ることが何よりの喜びです。』と、Ｊ.Ｆ.ピアース、ロッチデイル市助役が語りました。

兵庫県生協連でも12月21日夜６時半から、県民会館７階で、「ロッチデイル公正先駆者生協開店150周年記念」を祝う会の開催を予定しています。

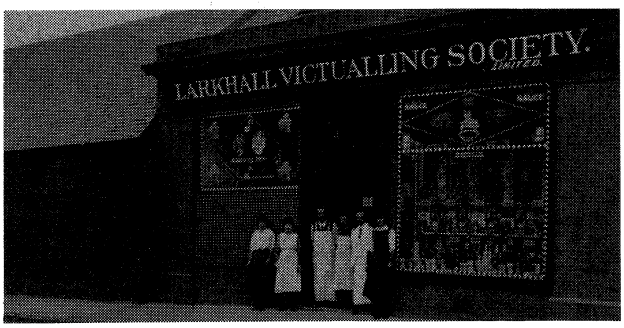
この６回連載最終回に当たり、編集部のご配慮で増ページ「史料特集」となり、「ロッチデイル公正先駆者生協150年記念」出版 *"CO-OP the people's business"* by JOHNSTON BIRCHALL.Manchester University Press 1994.と、筆者撮影本邦初「史料」等をご紹介します。



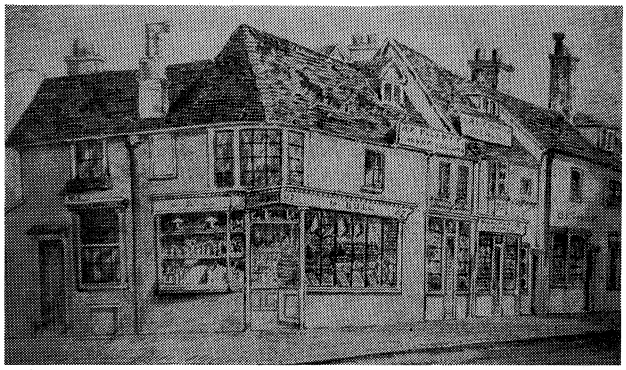
【１】「大英連合王国での最初の近代協同組合組織」とされている、1760(寶暦10)年のウリッジ王立造船所労働者たちの協同組合製粉場(ロンドン郊外)は風車ではなく、家畜力で石臼製粉をしていたもの。

【２】1797(寛政９)年創立のハル工場製粉反対協同組合(Hull Co-operative Anti-Corn Mill、ヨークシャー県)は、ネダーランド伝来の５枚羽根大型風車が動力、これが1854(安政１)年に創立のロッチデイル生産協同組合 (Rochdale Co-operative Manufacturing Society Ltd.)のモデルとなりました。ロッチデイルの時代にはすでにボイラーを利用の蒸気機関となっており、技術革新は急速に進んだのでした。大英連合王国の協同組合運動の起こりには、商業先進国ネダーランドからの影響があり、特に勤勉・自立のクエイカー教徒たちから強い影響を受けたと、私は推定しています。

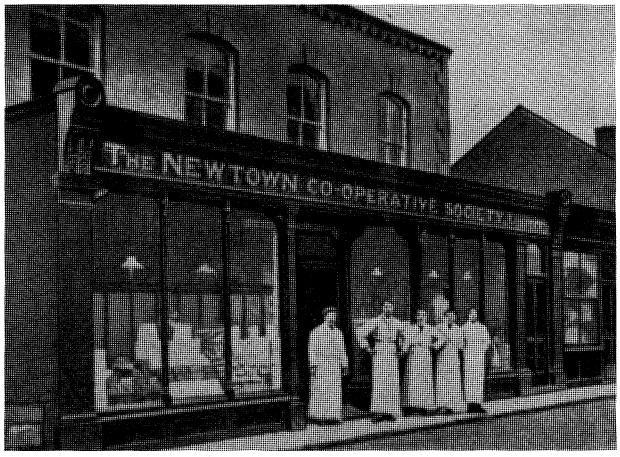
(注)　以下、写真、説明の順。……



【３】ロッチデイル公正先駆者生協よりも19年も早かったスコッツランド地方グラスゴウ市のラークホール食料品供給生協の店舗関係者６人。Victuallingとは「仕出し」の意味もあり、港町ですから船積み食糧などと共に、給食事業も供給していたのでしょうか？



【４】レデイ・バイロンの援助で、ウィリアム・キング医学博士が1827(文政10)年に創立したブライトン商業協同組合ウエスト通りの店舗。これはロッチデイルの店舗よりも17年も早かったのでした。

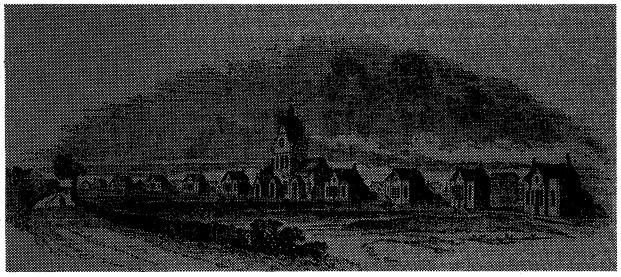


【５】Ｒ・オウエンの故郷北ウエイルズに開店した、ニュウ・タウン生協(New Town Co-operative Society)店舗と従業員。(創立年不詳、ロッチデイル生協以降？)

オウエンの晩年は労働運動からも離れて、自らの協同体建設運動への資金拠出を拒否したロッチデイル公正先駆者生協などの店舗活動を強く非難し、最後には心霊術にこって失意の内に亡くなりました。

【６】創立２年前マンチェスター『ガーディアン』紙上1842(天保12)年12月に、ロッチデイル町での「生協組織再建の呼び掛け」広告の筆頭発起人でしたトーマス・リブゼイ(Thomas Livsey,1815～1864)の立派

な「墓碑銘」をメモする筆者。彼は「先駆者たち」の友人で、町中の人々に信頼された警察署長であり、自治都市として認可された最初の市長公選の庶民側の最有力候補者でしたが、病に倒れて立候補を辞退したのでした。この「先駆者中の先駆者」はどうした訳か、「28人の先駆者たち」の中には加えられず、その墓もクリーン・アップされていないのには、私は納得が出来ませんでした。

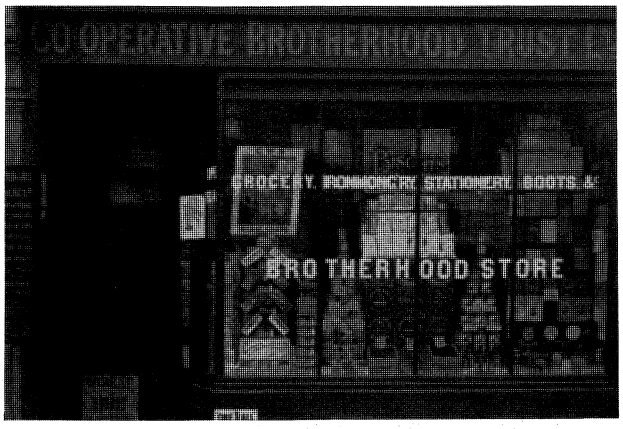


【７】マイルズ・アシュワース初代組合長は、開店２週間後の1845年１月６日の組合員総会で組合長を辞任し、長男の初代店舗販売係サミュエル・アシュワースまで生協を退職、この「チャーター村(Charterville)」完成時に親子一家揃って入居した協同体のスケッチです。(1848年発行『ロンドン絵入りニュウス』から。)

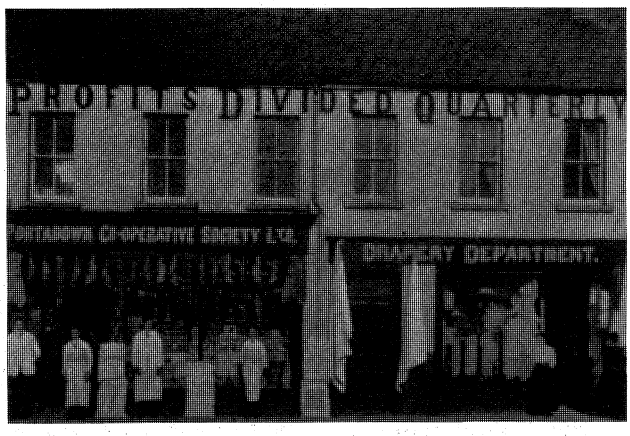
ロッチデイル公正先駆者生協の創立前後の時代にはＲ・オウエン、および、チャーチストたちの協同体建設運動を巡って内部対立と、激しい議論があったものと私は推定しています。これがＭ・アシュワース初代組合長の写っている「14人写真」を、現在でも大英連合王国生協史で使用しない理由ではないか？と私は推測しています。Ｒ・オウエンや、チャーチストたちの協同体建設運動への取り組みと、店舗活動展開との重大な「方針転換」の岐路(転換上の)の上に、ロッチデイル公正先駆者生協は船出したのでした。

【８】「チャーター村」開設当時住宅(cottages)の貴重な写真。同じような１軒にアシュワース親子はくじびき抽選の結果当選、資金を投げ打って入居しましたが、２年後には村全体が競買に付されて挫折、退去せざるを得ず、２年後の1851(嘉永４)年にロッチデイル町に再び戻り住みました。この写真では玄関前は改装されていますが、当時は２戸建て１棟(デタッチド・ハウス)だったようです。

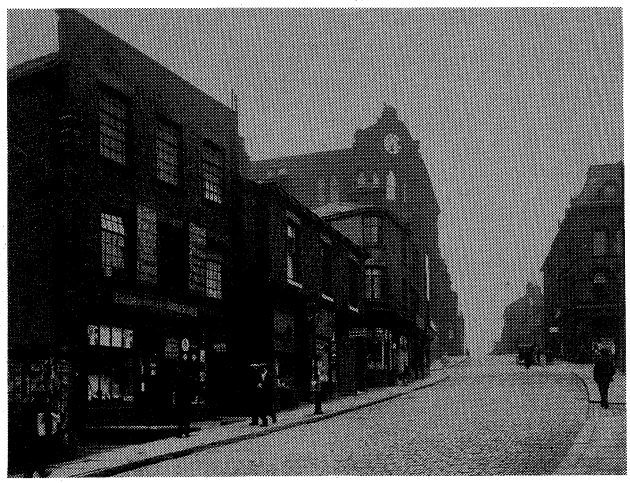
これは「歴史的な事実」なのです。



【９】ロンドンの市内で開店していた兄弟愛信託生協(Co-operative Brotherhood Trust Ltd.) 生活必需品供給事業の店舗。trustには「企業合同」の他に、「信頼・信任・信用・責任・義務・信用貸・掛売・希望・期待」などの意味もあり、この生協の創立年や、事業内容の詳細は不明。



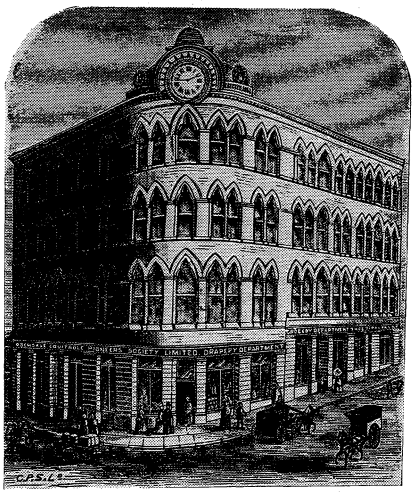
【10】北アイルランド自治区で開店し、「ロッチデイル方式」での「購買高比例四半期毎割り戻し制度(Profits Devided Quartery)」を実施していたポルタドーン生協(Portadown Co-operative Society Ltd.) の食料品・衣料品売場と、7人の関係者たち。(創立年代不詳。)

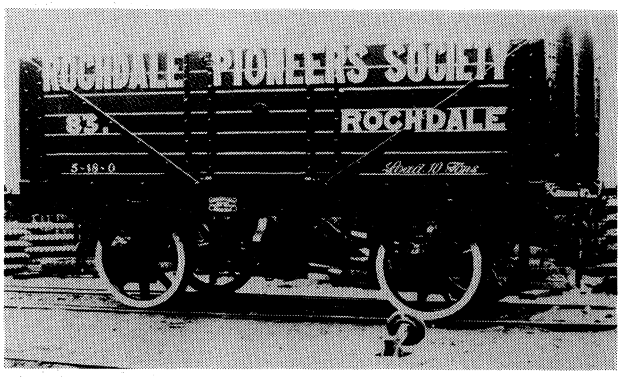


【11】1866(慶応２)年にトウド・レインと、チータム通りの交差点、41番地のビーバー旅籠屋、51番地の古い劇場のあった場所を買い取り、町１番の４階建てのデパートメント・ストアを開店しました。左端の３階建ての建物が31番地の最初の店舗(現在の「記念館」)で、家主に返済した後当時はペット・ショップとなっており、トウド・レインの奥左側に４階建ての新しい中央店舗の時計台が見えます。すでに記念館の左側には建物がなく、トウド・レインは歩道をもった石畳敷きの広いメイン・ストリートだったことがよくわかります。

【12】ロッチデイル生協（店名不詳）の店頭ショウ・ウインドウと、入り口に立つ店長。「生協運動の成功を！」のＣ.Ｗ.Ｓ.のポスター、大きな肉塊が裸陳列されており、現在の日本ではとても保健所や、消費者が承知しない販売方法でした。手押し車のそばの少年は、「オーダー・ボーイ(注文配達係)」と呼ばれて、毎週組合員に配達していました。「ご用聞き」をしていたのか、どうか？は不明ですが、来店購入者の支払い済みの商品だけを配達していたのではないか？との推定が妥当です。

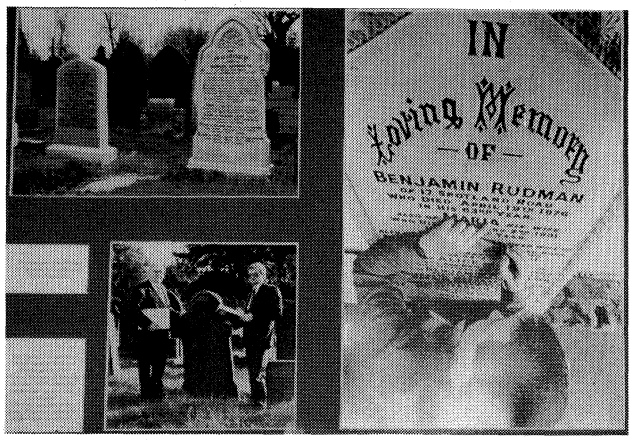
【14】ロッチデイル生協の中央店舗スケッチ。右側がトウド・レイン通り、左側がチータム通りで、当時の箱馬車、荷馬車、通行人の服装などがよくわかります。





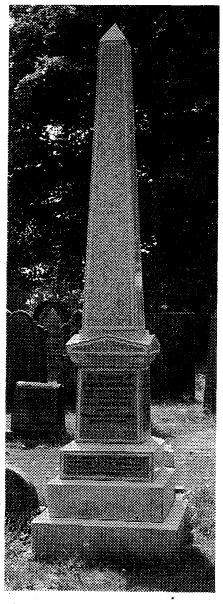
【15】ロッチデイル公正先駆者生協の石炭専用貨車を持って、これで仕入れ運搬、組合員に供給しました。

【13】ロッチデイル生協の第57番目のマーランド店店長と、近くの子供たち。Ｃ.Ｗ.Ｓ.のポスターも見え、路上の四角なものは郵便ポストでした。

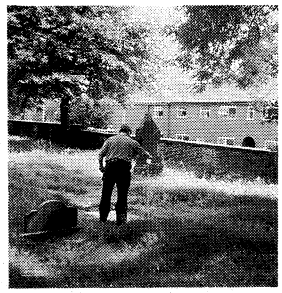


【16】今年創立150周年を記念して、「28人の先駆者たち」の墓のクリーン・アップをＣ.Ｗ.Ｓ.葬儀部が行なったことを、各展示会場でＰ.Ｒ.していました。従来からの「28人先駆者たち」(通説の分)だけしか、墓のクリーン・アップはされていませんでした。

【17】初代組合長M・アシュワース(左)と、長男の初代店舗販売係S・アシュワースの墓(右)。中央のアシュワース一家の「墓碑銘」を指差している人は、ロッチデイル市在住の筆者の協同研究者ドロシイ・グリーブズさん。

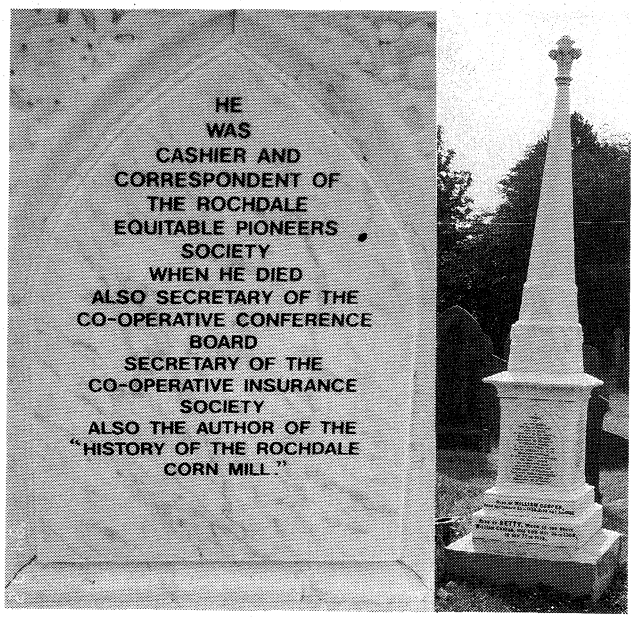


【18】初代５人の常任理事の１人で、のちに第３代組合長となったジェイムズ・スミジーズの墓。

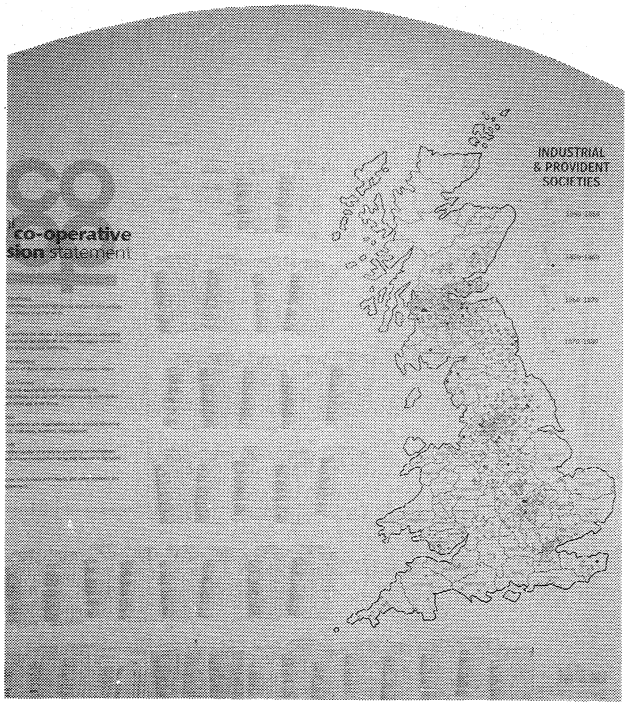


【19】筆者が３年前に10センチの芝生の下から掘り出して探し当てた、「再発見者」としての栄誉を持つ初代仕入れ担当者２人の内１人、デヴィッド・ブルックスの墓に水を掛けているところ。D・ブルックスはストライキで解雇されて失職したものか、G．J．ホリヨークは「彼は貧乏で有名だった。」と書いていました。

【20】ロッチデイル市内ミルンロウの聖ジェイムズ地区教会で、埋葬記録は残っているが、埋葬地点がもはや特定出来ず、教会の壁のかたわらに立て掛けられて、花だけは供えられていた初代常任理事５人の１人ジェイムズ・バムフォードの小さく気の毒な「墓碑銘」。

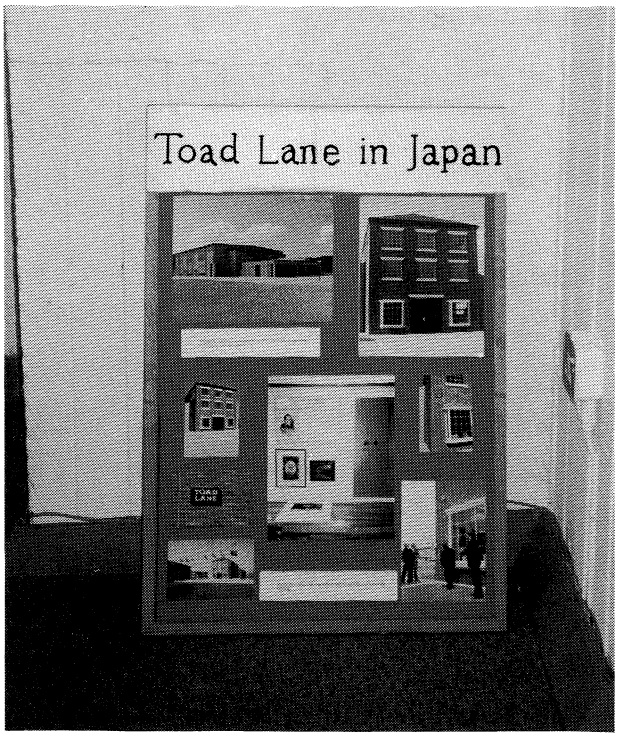


【21】初代金銭出納係(職員)で、１度「宗教問題での発言」が問題になって除名されましたが、間もなく反省して復帰、『ロッチデイル製粉協同組合史』の著者があり、チブスで46歳死亡時には専務理事で盛大な「生協葬」で報いられていた、ウィリアム・クーパーの１番立派な白大理石製墓と、その「墓碑銘」の１部。



【22】1840年代以降の大英連合王国の産業倹約協同組合(Industrial & Provident Societies)の分布図。なぜかアイルランドは全部抹消されていました。アイルランド島にはロッチデイル以前に生協運動と事業がなかったとは、筆者には信じられないことです。

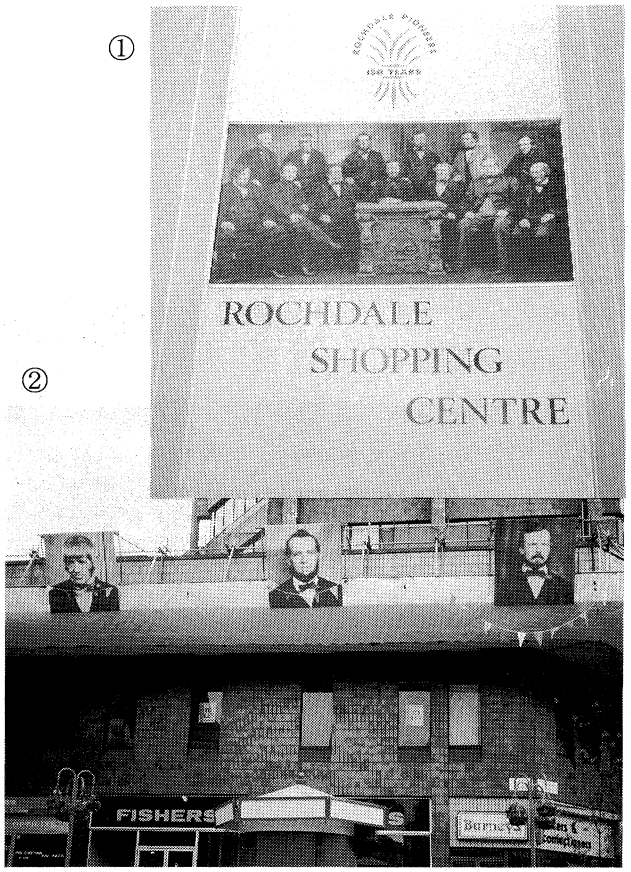
【23】ロッチデイル生協で使用された配達用前荷台の自転車２台。ユーモラスな“CO-OP”のマーク・デザインで、「御用聞き」は試みられてはいないようです。



【24】ロッチデイル記念館の２階展示場には、コープこうべ協同学苑の写真８枚が展示されていました。

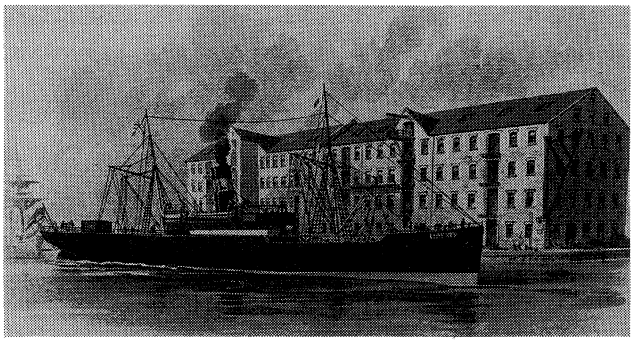
①

②



【25】ロッチデイル市営ショッピング・センターの上に大きく掲げられた「先駆者たち13人の写真」。(①写真)

【26】同上の市営ショッピング・センターの庇(ひさし)部分には、「13人の先駆者たち」の個別の写真も拡大して掲示されていますが、初代組合長その他の有力な「先駆者たち」でも除外されている人がなぜか多い。(②写真)



【27】イラストはＣ.Ｗ.Ｓ.５階建て製粉工場(リバプール市)と、運搬船「リバテイ号」。他に「パイオニア号」「エクイテイ号」という３隻の汽船がありました。

(今回で「ロッチデイルの虹」の連載は終了いたしました。)

世界をみつめる　国際情報

ケニアの協同組合

東にインド洋、西にアフリカ最大のビクトリア湖をのぞむ緑豊かな国、それがケニアです。

面積は日本の約1.5倍、人口は2,140万人。アフリカらしく数多くの部族が存在し、公用語のスワヒリ語、英語の他に約50もの部族語があります。

ケニアは国土の大半が1,000～5,000メートルの高原地帯です。よって赤道直下にあるにもかかわらず気候は温暖で過ごしやすく、首都ナイロビは年平均気温が摂氏18度前後と日本とあまり変わりません。

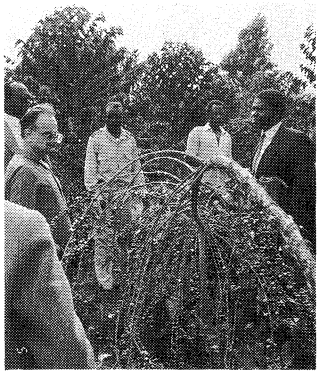
アフリカといえばこのところ、飢餓や内戦などの暗いニュースをよく耳にしますが、このケニアは「東アフリカの優等生」と言われるほど、経済的に安定しています。農業は国の基幹産業で、コーヒー等を輸出しています。

ケニアの協同組合は1908年に、ヨーロッパの酪農民が自らが生産した乳製品を販売するために組合を作ったのが始まりです。1917年にはコーヒーの組合も作られました。当時は、組合員は欧州人のみでした。

その後、協同組合は全土に広がり、1992年現在で、コーヒー組合が213、酪農組合が207、また、綿花が82、さとうきびが91など、作物別に協同組合があり、その他の組合も含めると農協数は2,647、組合員は145万人に上っています。

酪農では、各地に乳製品・牛乳工場をもつ乳業協同組合連合会があり、フィンランドなど北欧諸国の技術援助をうけて、衛生的で鮮度の高い牛乳、乳製品づくりが発達しています。政府、協同組合銀行からも資金援助を受けています。

コーヒーは、輸出作物であり、協同組合から国の輸出ボードを通じて海外へ輸出しています。ケニア人はコーヒーより専ら紅茶を飲んでいます。コーヒーは国際価格の変動が激しいため、農家も安定収入を得るのが難しい場合もありますが、価格が高騰すれば高収入となるため、コーヒー栽培は盛んです。



コーヒー園で

農家は、自分の作る作物について、それぞれの農協を利用します。農協は販売・購買部門の事業を行っており、また協同組合銀行からの融資の窓口にもなっています。先進的な農協では、各種相談活動や技術指導も行っています。

金融部門では信用・倹約組合が各地にあり、農民は収入として得たお金をこの組合に貯金しています。

一方、国段階、州段階に協同組合担当省庁があり、担当官も多数います。彼らは農協の育成、指導を行っており、行政も農協の活動を協力にバックアップしています。

ケニア政府は、協同組合育成のために積極的な政策を展開し、また海外からの支援に期待しています。しかし、我々日本人からみると、いかにしてケニア人が「自分たちの力で」農村開発なり、農協の育成なりを行えるようになるか、そのための人材開発やノウハウが大きな課題のように思えます。

ケニアの農業者の自立と、生産・流通の向上のために農協は今後も重要な役割を担っていくでしょう。

（ＪＡ全中　国際部）

協同組合運動に生きる

都市型漁協の悩み

兵庫県漁業協同組合連合会
参事　寿　　進

人類にとって一つの大きな節目である21世紀があと数年で始まろうとしています。そして人間社会は21世紀に向かって急速に変化しているように感じる今日この頃です。

東西ドイツの統合、ソ連の崩壊等、共産主義社会の衰退化が表れ、資本主義社会もＥＣ諸国の経済統合、ＥＡＥＣへの日本の加盟問題等徐々に形を変えつつあり、世界的な社会の変革期を迎えていると思います。

国内においても自民党の長期政権が崩れ、政治は混迷を続けていますが、日本が経済大国となった現在、高度経済成長時代に残した環境破壊の方向修正をすべく、最近、人間社会と自然界との調和を図るため、自然保護、環境保全等の動きが活発化しています。

漁協系統組織においても、合成洗剤追放運動、海浜の清掃活動、また「森は海の恋人」を合言葉に植林を行う漁業者の活動等各地で海の環境保全に取組み、更に海の資源保護のため、栽培漁業による稚魚の放流、小型魚の最放流、網目の制限、禁漁期間の設定等、資源管理型漁業の推進に努め、「海は銀行、魚は貯金」の標語通りの運動を展開しております。

このような運動を協力に推進し、青く豊かな海を次の世代のために継承していくためには、漁業者一人ひとりの認識と漁業組合の経営基盤が安定した状態が必然的となってきます。

現在県内では66の漁協があり、漁協はそれぞれ漁業権の管理や経済事業、指導事業を行っていますが、中には漁業権管理のみしか行っていない小規模な漁協も多く、また、経済事業を行っている漁協でも経営が不安定な漁協も数多くあります。さらに、漁業者の高齢化と後継者不足から組合員の減少が進み、近い将来法定の組合員数の確保すら危ぶまれる組合もあります。このため、現在、漁協系統が一丸となって漁協合併の推進に鋭意努力していますが、都市型漁協の悩みで、漁協の運営、経営内容がどうであろうと漁業者は日々の生活に困らない状態が多く危機感が薄く、合併は遅々として進んでいない状況にあります。

農協関係の合併は非常な勢いで進んでおり、また、他府県の漁協においても既に合併が行なわれている事例も多く耳にしますが、残念ながら県内の漁協では現在皆無といったところです。

漁業組合の経営基盤の安定のための事業収入はほとんどの組合が、販売事業、信用事業、購買事業の三本柱となっていますが、販売事業は年々減少する水揚高のため手数料の減少につながり、手数料率の見直しを余儀なくされている組合もあります。信用事業は金利の自由化により地元銀行との競合関係で厳しい対応に迫られている昨今です。購買事業は昭和48年と54年の石油パニック時に大量に仕入れた資材が不良在庫となり、長期間これの処理に悩まされ、以降は在庫を持たず、資材の供給は系統と地元業者に任せ、代金回収のみを行っている漁協が多くなっているため、本来の機能は発揮されていない等、漁協の経営基盤となる各事業が四面楚歌といった状況であります。

同じ組合組織でありながら、農協は面、漁協は線上に点在している立地環境の違いはあっても、協同組合の精神は同じです。先進者たちの事例に学びながら英知を結集し、次の世代のために、また、21世紀に向かって現状打開を図る努力を重ねて行かなければならないと念じております。

協同組合研究短信〈No12〉

組合史源流への接近

わが国の協同組合史研究に必須な資料の発掘、復刻が続いている。源流として想起されることの多い報徳社関係資料の復刻もそのひとつである。報徳(社)運動展開の発信地であった静岡県・遠江国報徳社、その後身である大日本報徳社は、会員間に研究会を設け、機関誌を発行して報徳(社)運動の推進をはかった。

代表的な機関誌に『大日本帝国報徳』(明治25～36)、『大日本報徳学友会報』(明治37～大正８)、『報徳の友』(大正９～13)、『大日本報徳』(大正14～昭和20)がある。

向こう４年の間に全号の復刻を緑蔭書房が企画し、この11月中に明治36年までの分が刊行される。総額94万円といささか値がはる。

産業組合期の代表的組合役職員向け機関誌は、産業組合中央会の『産業組合』であるが、同中央会は、組合員向けに月刊『家の光』を発行した。農家が対象であったが後に都市版も作成した。雑誌の主たる役割は、産業組合運動の理解と協力をうることにあったが、衣食住から育児、健康、医療、農作業の改善など、万般の農村生活改善をめざし、娯楽と教養も加味した実用誌である。

大正15年12月の創刊で、平成６年12月現在も家の光協会から継続刊行中である。これの創刊号から昭和24年12月号までを不二出版が昨年から復刻を始めた。

既に、昭和３年６月号までがでている。１号分、6,000円から9,000円見当で総額200万円、10年かけて出版する予定らしい。これも大図書館、大学、研究機関等ででもなければ、個々の組合では、一寸高額な買物である。

欧米の協同組合運動が日本に伝えられた経緯を丹念に追跡した研究成果に杉本貴志氏(慶応義塾大学・日本学術振興会特別研究員)の「明治期における生活協同組合の紹介と研究／経済学書にみる協同組合論」がある。

源流を探る組合史研究では、今後、必ず引用されることになる好論考である。

文明開化に果した福澤諭吉とその門下生は協同組合導入にも一役かっている。彼等が用いたテキストを仔細に調べて、文中、協同組合がどう取扱われ、説明されているかを辿ったものだが、邦人の手になる経済学書が流布されていない時代のこととて、彼等は原書を直接利用するか、その翻訳本かを通じて、協同組合の存在を知ったようである。この人達の中から、ほどなく、東京で、大阪で消費組合がつくられる。

いずれも、数年を経ず解体するに至る。明治10年代の話しである。

経済学書中の、協同組合の記述に源流を求める試みは、戦前期に丸岡堯(大原社研)、緒方清(東京商大)の「本邦消費組合運動」(ジード著、久我貞三郎訳『消費組合論』所収)、奥谷松治(当時は、協同組合史の研究家)の「明治時代の消費組合史料集」(産業組合中央会編『産業組合調査資料・第63輯』所収)があるが、本研究は、それらの全てに目を通し、新たに類書中に発見したものを加えて、類型化を試みた。

明治初期については、信用組合を中心としたものに渋谷隆一氏(駒沢大学)の「明治期の信用組合研究」(加藤俊彦編『日本金融論の史的研究』東大出版会、所収)があり、杉本氏の研究も加えて、この期の資料は、ずい分豊富になった。『第２回生活協同組合研究奨励助成研究報告論文集』生協総合研究所刊、3,000円に載る。

(協同組合図書資料センター・古桑　実)

編集後記

厳しい環境のなかでこそ、協同の意識と行動を大切にしたいものです。　(A)